

○ 本校の概要

本校は昭和22年に開校し、私鉄の4駅に囲まれた交通至便な住宅街にあり、現在は12学級、全校生徒361名の中学校である。敷地は風致地区内にあり、自然に溢れ、4月には校庭も一面桜の花で覆われる。校庭の竹林にはたくさんのタケノコが生え、給食で春の香りを楽しんでいる。隣接して区民の憩いの場である周囲を15分ほどで歩ける風光明媚な洗足池があり、運動会の長距離走ではここがコースとなっている。生徒たちはこの池に自生する活動に取り組み、毎年その風情を地域の方から喜ばれている。また、落ち葉を集めて作ったミズコンポスト、夏の曝射しをささげるゴーヤのグリーンカーテン、さらに近隣の大岡山駅の駅前花壇作り等もしている。教育目標は〇気品のある生徒の育成 〇実力のある生徒の育成 〇健康の優れた生徒の育成の3つを掲げている。教育活動は、2011年にユネスコスクールに加盟し、地域を「屋根のない学校」として捉え、地域の人々としてをモットーに地域の中で、地域の人々と共に、地域のために、環境を保全する環境教育や、災害に立ち向かう場所としての防災教育を中心に、国際理解・交流教育、地域連携教育、人権・命尊重・平和教育を行い、生徒の自己有用感、自己肯定感を育てている。自分の育った地域に愛着を持ち、郷土愛を育み、将来の日本、世界の様々な課題を解決して、心豊かに生きていく基盤となる教育実践を行うことで、20年・30年後の持続可能な社会の担い手を育てる持続発展教育(ESD)を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	4:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1~7)で3または4と答えた生徒が90%以上			A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:年度間に1回は知らせた。 2:お知らせできなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	3:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1~7)で3または4と答えた生徒が80%以上			B	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4:4 3:3 2:2 1:1	2:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1~7)で3または4と答えた生徒が60%以上			C	
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	1:生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1~7)で3または4と答えた生徒が60%未満			D	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
		基礎学力の定着を目指し、定期考査前に、専任教員と学習指導講師が協力して、国語・社会・数学・理科・英語の五教科の補充授業を実施する。	4:毎回五教科すべて実施した。 3:80%以上の実施率であった。 2:60%以上の実施率であった。 1:60%未満の実施率であった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	4:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1~8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14~22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4~6)で3または4と答えた生徒・保護者が90%以上			A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	3:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1~8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14~22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4~6)で3または4と答えた生徒・保護者が80%以上			B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	2:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1~8)生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14~22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4~6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%以上			C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	1:生徒学校評価アンケートの該当する項目(1~8)、生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14~22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4~6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%未満			D	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
		人と人、人と自然のつながりを体験させるために、ボランティア活動に対する生徒の意欲を高めさせ、積極的に参加させる。	4:ボランティア活動を月1回以上実施した。 3:ボランティア活動を学期に1回以上実施した。 2:ボランティア活動を年1回以上実施した。 1:実施しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実技」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	4:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22~25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2~5)で3または4と答えた生徒が90%以上			A	
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	3:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22~25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2~5)で3または4と答えた生徒が80%以上			B	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	2:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22~25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2~5)で3または4と答えた生徒が60%以上			C	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3:3 2:2 1:1	1:生徒学校評価アンケートの該当する項目(16・17,22~25)、生徒の生活アンケートの該当する項目(2~5)で3または4と答えた生徒が60%未満			D	
		体育の授業中において、筋肉・体幹等のトレーニングを行う。	4:90%以上行っている。 3:80%以上行っている。 2:50%以上行っている。 1:50%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	4:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8~18)で3または4と答えた生徒が90%以上				A
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	3:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8~18)で3または4と答えた生徒が80%以上			B	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1	2:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8~18)で3または4と答えた生徒が60%以上			C	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全教員が月1回以上活用した。 3:80%以上の教員が月1回以上活用した。 2:60%以上の教員が月1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	1:生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8~18)で3または4と答えた生徒が60%未満			D	
		研究発表会に向けて、SDGsを念頭においた校内の研究授業を授業に生かした。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:4 3:3 2:2 1:1					
		教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	4:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21~25)で3または4と答えた保護者が90%以上				A
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の受容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	3:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21~25)で3または4と答えた保護者が80%以上			B	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	2:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21~25)で3または4と答えた保護者が60%以上			C	
		朝礼、講演会、まちなか点検、学校防災訓練等の地域と連携した教育実践を実施する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施できなかった。	4:4 3:3 2:2 1:1	1:保護者学校評価アンケートの該当する項目(21~25)で3または4と答えた保護者が60%未満			D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。